

豊橋夢工場 エコアクション21 環境経営レポート

(2023年4月1日～2024年3月31日)

有楽製菓株式会社 豊橋夢工場

発行日 2024年 5月17日

改定日 2024年 8月29日

「夢のある安くて美味しいお菓子を創造する企業を目指します」
の企業理念のもと、持続可能な循環型社会の実現を目指します。



目次

1. 会社概要	P1
2. 対象範囲	P3
3. 環境経営方針	P5
4. 基準年の環境負荷と中期環境経営目標	P6
5. 環境経営計画、環境経営目標の実績及び 環境経営計画の取り組み結果とその評価並びに次年度取り組み内容	P7
6. 主要エネルギー原油換算量・売上原単位推移	P18
7. エコに関する各部署年間経営目標	P19
8. 当社の環境への取り組み	P20
9. 当社の食品リサイクルの取り組み	P21
10. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟の有無	P23
11. 代表者による全体評価と見直し結果	P24

1. 会社概要

(1) 事業者名及び代表者氏名

事業者名：有楽製菓株式会社

代表者氏名：代表取締役社長 河合 辰信

(2) 所在地

認証・登録範囲は、豊橋夢工場のみ

〈豊橋夢工場〉

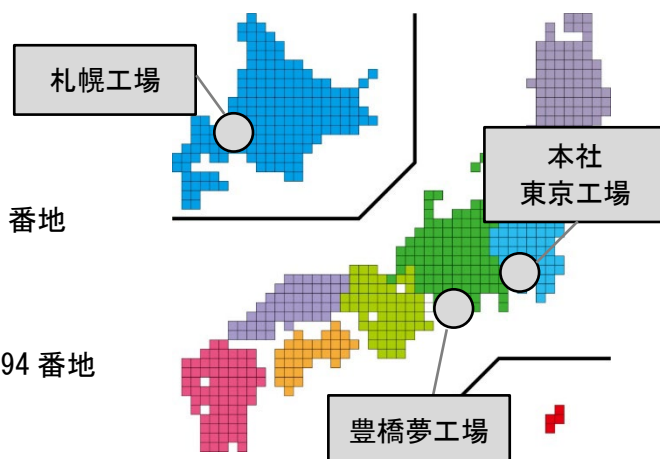
〒441-3111 愛知県豊橋市原町字蔵社 88 番地

〈本社・東京工場〉

〒187-0032 東京都小平市小川町 1 丁目 94 番地

〈札幌工場〉

〒004-0005 北海道札幌市厚別区厚別東 5 条 2 丁目 14 番地 238



(4) 事業内容

チョコレート菓子、焼き菓子（ビスケット）の製造・販売

〈主な製品〉



(5) 事業の規模

事業年度 2022 年 8 月～2023 年 7 月（第 65 期）

売上高 154 億円（2023 年 7 月期）

従業員数 400 名

(6) 認証登録の対象組織の規模 （豊橋夢工場）

従業員数 289 名（2023 年 7 月期時点）

敷地面積 61,536.73 m²

延べ床面積 12,256.31 m²

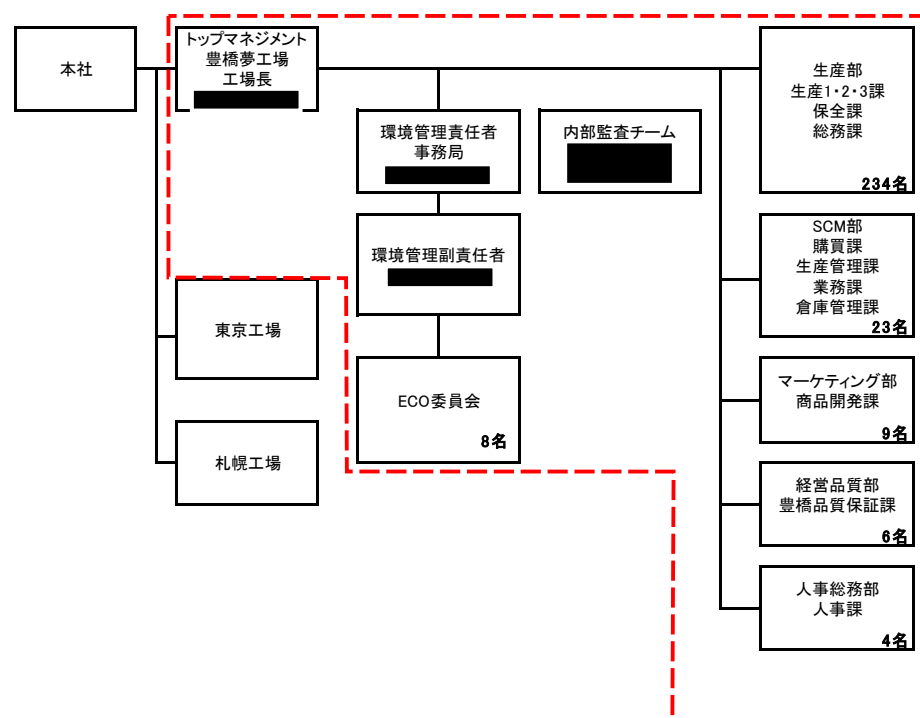


2. 対象範囲

(1) 認証・登録対象組織

豊橋夢工場 赤点線枠内を対象範囲とする。

(2) 実施体制



＜EA21 実施体制＞

* 豊橋夢工場 工場長が代表者（トップマネジメント）で、環境管理責任者を置き、全部門からなる体制の活動である。

1. 環境管理責任者をリーダーとし、組織内から EA21 推進リーダーを選抜する。
ECO 委員会（エコプロ）を構成し、各テーマに沿った活動を推進する。
システム委員長が EA21 活動の潤滑剤の役目となり、活動の進捗確認を行う。
2. 工場長が各テーマリーダーを招集し、ECO 委員会（エコプロ）を月 1 回開催する。進捗・問題点等の報告を受けて、重要な事案があれば討議・決定を行う。
3. 組織内に「内部監査チーム」を置き、これまでの活動が自分たちで決定した環境マネジメントシステムに適合しているか、そして、適正または効果的に実施され、維持されているか、年に 1 度「内部監査」を行うこととする。

《エコプロジェクト》

東京本社、札幌工場、豊橋夢工場の3拠点で、私たちの事業活動を通して排出されるCO²や廃棄物を削減し、環境への負荷を少しでも軽減できるようエネルギー効率の追求や対策を行っています。エコプロジェクトのメンバーは毎年見直し、1人でも多くの従業員に環境について考えてもらえるような仕組みになっています。

エコプロチーム役割表

2023.03.21更新
(2023年3月21日から適用)

職位		責任範囲
エコプロ チーム	<代表者>	環境経営に関する統括責任者 環境経営システムの実施に必要な資源(人・費用・設備・時間)を準備 環境管理責任者の任命 環境方針の策定・見直し及び全従業員への周知 環境目標・環境活動計画書の承認 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境活動レポートの承認
	<環境管理責任者>	環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 環境目標・環境活動計画書を確認 環境活動の取り組み結果を代表者へ報告 従業員への環境方針の周知 従業員に対する教育訓練の実施及び、記録の保管 想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 環境活動レポートの確認
	<環境管理副責任者>	環境管理責任者の補佐 環境経営システムの構築、実施、管理 環境活動レポートの確認
	<ECO委員会(環境事務局)>	環境管理責任者の補佐、ECO委員会の事務局メンバー 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 環境目標・環境活動計画書の原案の作成 環境活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境活動レポートの作成、公開(事務局に備付けと地域事務局への送付) 各部署での問題点の発見、是正、予防処置の実施 環境活動計画の審議 環境活動実績の確認・評価
内部監査	<内部監査員>	環境に関する内部監査の計画 環境に関する内部監査の実施 環境に関する内部監査の報告
全従業員	全従業員	環境方針の理解 環境への取り組みの重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境へ参加

ECO部会テーマ	
環境負荷の定量評価	月次で電気・ガス・水などの使用量データを収集し、使用量の増減に対する原因や傾向について分析・評価する
ハードウェアによる省エネ	機械・設備で使用する部品の交換、設定の見直し、新規導入を行いエネルギーの消費を実施する。
廃棄物の削減	排出される食品廃棄物の内訳を原材料、製品、工程等に細分化し発生原因の調査と再発防止策をたてる

3. 環境経営方針

〈有楽製菓株式会社 環境理念〉

当社は「夢のある安くて美味しいお菓子を創造する企業を目指します」の企業理念のもと、あらゆる事業活動に際して積極的に地球環境保全に配慮し、持続可能な環境型社会の実現に貢献し、環境経営の継続的改善を誓約します。

〈環境経営方針〉

1. 企業倫理に基づいて、環境に関連する法規制を遵守します。
2. 生産活動に携わる使用設備の効率化に努め、省エネルギーを推進します。
3. リサイクル及び廃棄物の減量に努め循環型社会づくりを促進します。
4. 従業員への環境教育を広げ、環境意識の高揚に努めます。
5. エコアクション 21 を全員運動とすることを宣言します。

制定日：2019 年 8 月 1 日

改定日：2023 年 5 月 26 日

代表者：豊橋夢工場 工場長

4. 基準年の環境負荷と中期環境経営目標

項 目		単位	基準値	目 標		
			2022/4/1～ 2023/3/31	2023/4/1～ 2024/3/31	2024/4/1～ 2025/3/31	2025/4/1～ 2026/3/31
1. 二酸化炭素排出量		kg-CO2	3, 129, 175. 41			
		原単位	237. 65	235. 27 (−1%)	232. 92 (−2%)	230. 59 (−3%)
	1-1. 電力使用量	千kWh	5, 313. 11			
		kl	1, 366. 67			
		原単位	0. 1038	0. 1028 (−1%)	0. 1017 (−2%)	0. 1007 (−3%)
	1-2. ガス使用量	千m³	421. 55			
		kl	489. 42			
		原単位	0. 0372	0. 0368 (−1%)	0. 0364 (−2%)	0. 0361 (−3%)
	1-3. ガソリン 使用量	ℓ	2, 886. 02			
		原単位	0. 2192	0. 2170 (−1%)	0. 2148 (−2%)	0. 2127 (−3%)
2. 水使用量		m³	7, 673			
		原単位	0. 5827	0. 5810 (−0. 3%)	0. 5792 (−0. 6)	0. 5769 (−1%)
3. 食品廃棄物発生量		t	149			
		原単位	0. 0113	0. 0112 (−1%)	0. 0111 (−2%)	0. 0110 (−3%)
4. 食品リサイクル率		%	90. 6	88. 8 (維持)	88. 8 (維持)	88. 8 (維持)
5. 一般廃棄物発生量		kg	358, 287			
		原単位	27. 21	26. 94 (−1%)	26. 67 (−2%)	26. 40 (−3%)
	5-1. 段ボール・ 雑紙 等	kg	299, 960			
		原単位	22. 78	22. 55 (−1%)	22. 33 (−2%)	22. 10 (−3%)
	5-2. 一般ごみ	kg	58, 327			
		原単位	4. 4297	4. 3854 (−1%)	4. 3416 (−2%)	4. 2982 (−3%)
6. 産業廃棄物発生量		kg	135, 724			
		原単位	10. 31	10. 20 (−1%)	10. 10 (−2%)	10. 00 (−3%)
7. エコ検定合格者		名	2	5 (維持)	5 (維持)	5 (維持)

注 1. CO2 基礎排出係数：中部電力の係数 0.459 を使用しています。

注 2. PRTR 法に該当する化学物質の使用はありません。

注 3. 二酸化炭素排出量には軽油も含んでいますが、非常用電源用のため取組み計画には反映されません。

注 4. 目標値は売上(百万円)で割った原単位です。電力・ガスは原油換算量、その他は表に記載の各単位による原単位です。

注 5. 食品廃棄物発生量の原単位は売上(百万円)で割ったもので、菓子製造業の基準発生原単位と一致します。

菓子製造業の目標値は 249kg/百万円です。

注 6. 電気の原油換算係数は「9.97GJ/千 kWh×0.0258kL/GJ」です。ガスの原油換算係数は「45GJ/Nm³×0.0258kL/GJ」です。

注 7. 2021 年 4 月～2022 年 3 月の売上は 11,747.4 百万円、2022 年 4 月～2023 年 3 月は 13,167 百万円です。

注 8. 数値はすべて四捨五入です。

5. 環境経営計画、環境経営目標の実績、取り組み結果

取り組み期間：2023/4/1～2024/3/31

同期間売上：14219.0 百万円

1. 二酸化炭素排出量削減

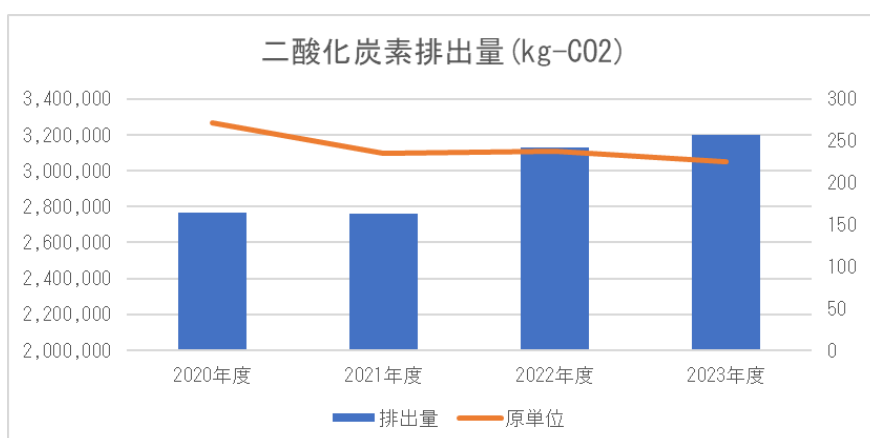
<今年度 取り組み計画>

2023年度取り組み計画	担当
①電力、ガス、ガソリンの削減活動により二酸化炭素排出量を削減する	

<今年度 実績・結果>

項 目	単位	目標値	実績値	達成率 (%)	評 価 (○, ×)
		2023/4/1～2024/3/31			
1. 二酸化炭素排出量削減	kg-CO2/売上 (百万円)	235.27	225.11	104.5%	○
		-1%	3,200,832.91 kg-CO2		
	【実績評価】昨年のよりも排出量自体は増加しているが、売上増加と比較すると電気・ガスの使用量は減少しており、二酸化炭素の排出も減少となった。				

<今年度 二酸化炭素排出量グラフ>



<次年度 取り組み計画>

2024年度取り組み計画	担当
①電力、ガス、ガソリンの削減活動により二酸化炭素排出量を削減する	

1-1. 電気使用量削減

<今年度 取り組み計画>

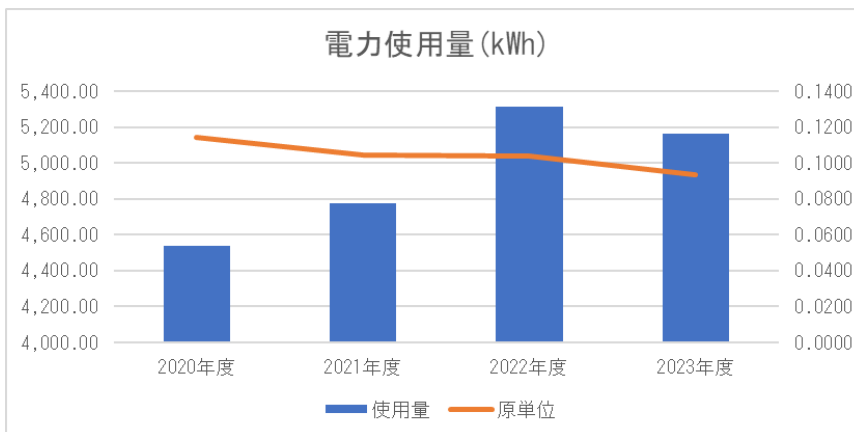
2023年度取り組み計画		担当
①無駄漏れのエアーの箇所を特定し、漏れを無くす		■
②モーター回転数の見直しを行い、INVの数値を調整する		

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①	計画 実行												
②	計画 実行												

<今年度 実績・結果>

項 目	単位	目標値	実績値	達成率 (%)	評 価 (○, ×)
		2023/4/1～2024/3/31			
1-1. 電力使用量削減	原油換算量/ 売上(百万円)	0.1028	0.0934	110.0%	○
		-1%			
	【実績評価】Eライン・Gラインの深夜勤がなくなったため、電力使用量が減少し、目標達成となった。				

<今年度 電力使用量グラフ>



<次年度 取り組み計画>

2024年度取り組み計画		担当
①無駄漏れのエアーの箇所を特定し、漏れを無くす		■■■■■
②太陽光発電を検討、導入する		

1-2. ガス使用量削減

<今年度 取り組み計画>

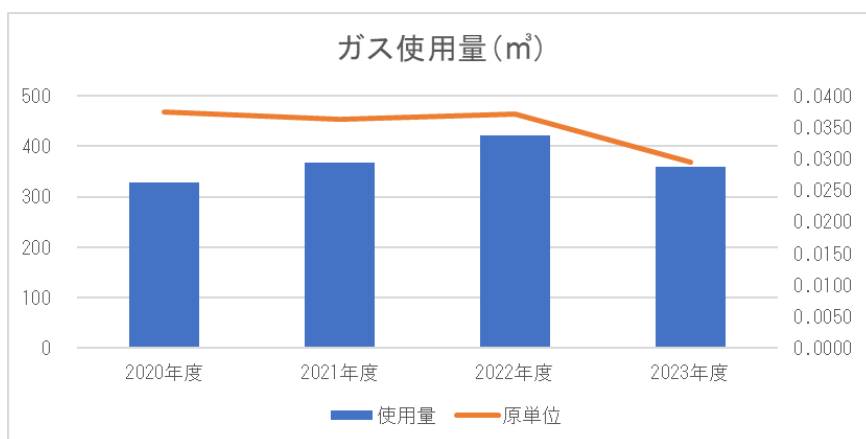
2023年度取り組み計画		担当
①オペレーションによる使用量削減を図る		
②Gラインオープンバーナーコントローラー点検		

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①	計画 実行												
②	計画 実行												

<今年度 実績・結果>

項 目	単位	目標値	実績値	達成率 (%)	評 価 (○, ×)
		2023/4/1～2024/3/31			
1-2. ガス使用量削減	原油換算量/ 売上(百万円)	0.0368	0.0294	125.1%	○
		-1%			
	【実績評価】Eライン・Gラインの深夜勤が完全に無くなった6月以降は、オープンの稼働時間が減少し目標達成となった。				

<今年度 ガス使用量グラフ>



<次年度 取り組み計画>

2024年度取り組み計画		担当
①オペレーションによる使用量削減を図る		
②オープンラインバーナー清掃		

1-3. ガソリン使用量削減

<今年度 取り組み計画>

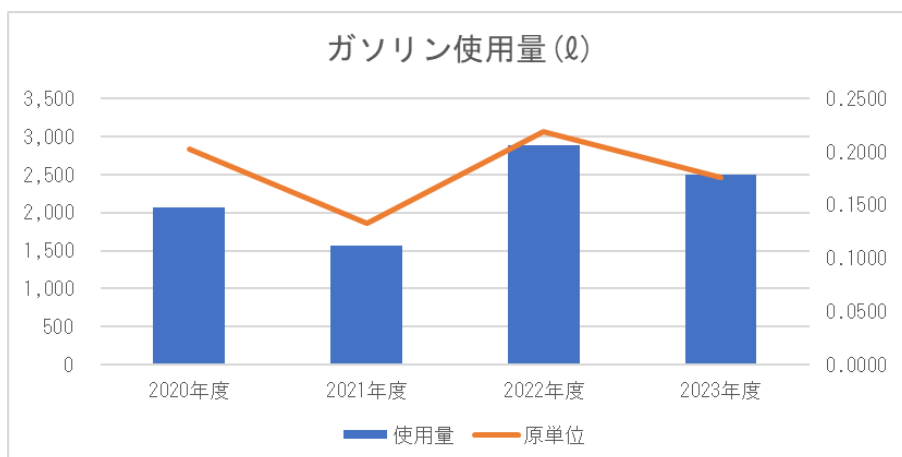
2023年度取り組み計画		担当
①不要なアイドリングをやめるよう呼びかける		〃
②エコドライブについて周知を行う		

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①	計画 実行												
②	計画 実行												

<今年度 実績・結果>

項 目	単位	目標値	実績値	達成率 (%)	評 価 (○, ×)
		2023/4/1～2024/3/31			
1-3. ガソリン使用量削減	ℓ/売上	0.2170	0.1754	123.7%	○
	(百万円)	-1%			
	【実績評価】新型コロナウイルスが落ち着き、公共交通機関を使用して出張・研修へ参加できるようになったため社用車利用頻度が通常通りに戻り、目標達成となった。				

<今年度 ガソリン使用量グラフ>



<次年度 取り組み計画>

2024年度取り組み計画		担当
①不要なアイドリングをやめるよう呼びかける		〃
②エコドライブについて周知を行う		

2. 水使用量削減

<今年度 取り組み計画>

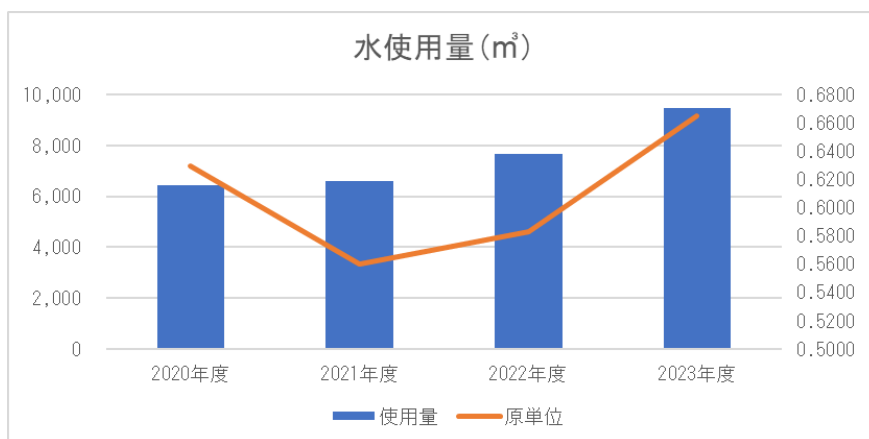
2023年度取り組み計画		担当
①	清掃時の節水を呼び掛ける	〃
②	洗浄室増設に伴って基準値の見直しを行う	〃
③	グリストラップの排除	〃

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①	計画 実行	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
②	計画 実行	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
③	計画 実行		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→

<今年度 実績・結果>

項 目	単位	目標値	実績値	達成率 (%)	評 価 (○, ×)
		2023/4/1～2024/3/31			
2. 水使用量削減	m³/売上	0.5810	0.6651	87.4%	×
	(百万円)	-0.3%			
	【実績評価】新工場建設のため、使用量が増加。温水ジャケット外れによる水漏れ(6月)発生により、目標未達となった。				

<今年度 水使用量グラフ>



<次年度 取り組み計画>

2024年度取り組み計画		担当
①	清掃時の節水を呼び掛ける	〃
①	洗浄室のホース、蛇口をチェックし無駄な漏水を無くす	〃

3. 食品廃棄物削減

<今年度 取り組み計画>

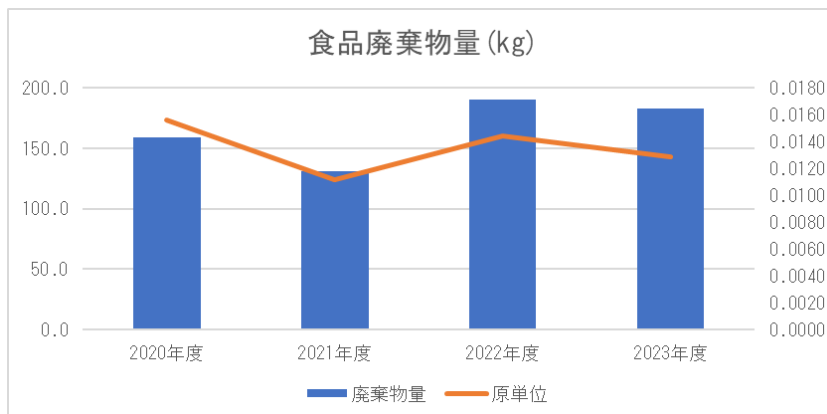
2023年度取り組み計画		担当
①NRラインネットコンベア下廃棄ロス削減		■■■■■
②フィードロスの配布		■■■■■

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①	計画 実行			→									
②	計画 実行	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→

<今年度 実績・結果>

項 目	単位	目標値	実績値	達成率 (%)	評 価 (○, ×)
		2023/4/1～2024/3/31			
3. 食品廃棄物削減	t /売上	0.0112	0.0129	87.0%	×
	(百万円)	-1%			
	【実績評価】 グレープフルーツ着工、糖蜜のカビ発生、破碎テフロン混入などトラブルが多く発生、また虫発生による廃棄量も増加し、目標未達となった。				

<今年度 食品廃棄物量グラフ>



<次年度 取り組み計画>

2024年度取り組み計画		担当
①トラブルによる原料の床落下削減		■■■■■
②フィードロスの配布		■■■■■

4. 食品リサイクル率向上

<今年度 取り組み計画>

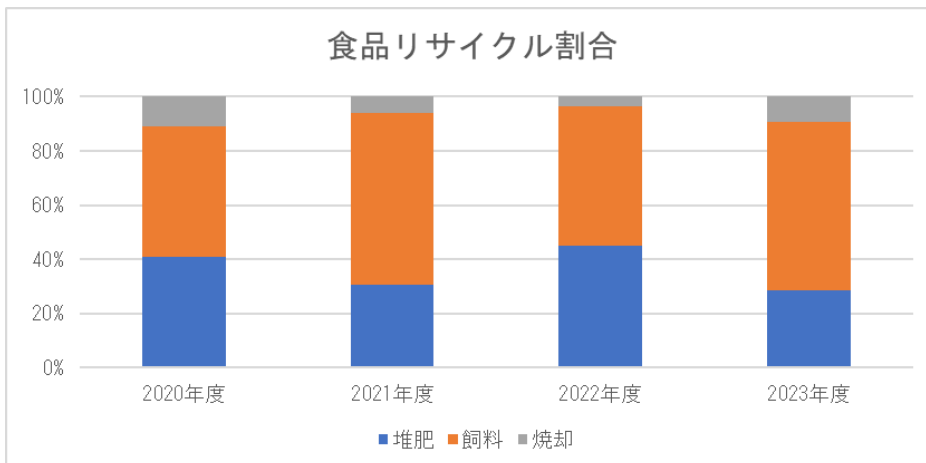
2023年度取り組み計画	担当
①人的トラブルを未然に防ぎ、年間通じて100%を目指す	■■■■■

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
① 計画 実行	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

<今年度 実績・結果>

項 目	単位	目標値	実績値	達成率 (%)	評 価 (○, ×)
		2023/4/1～2024/3/31			
	%	88.8	90.6	102.0%	○
4. 食品リサイクル率向上	【実績評価】廃棄量は増加したものの、リサイクル可能な製品だったため、結果としてリサイクル率が向上し目標達成となった。				

<今年度 食品リサイクル率グラフ>



<次年度 取り組み計画>

2024年度取り組み計画	担当
①人的トラブルを未然に防ぎ、年間通じて100%を目指す	■■■■■

5. 一般ごみ廃棄物削減

<今年度 取り組み計画>

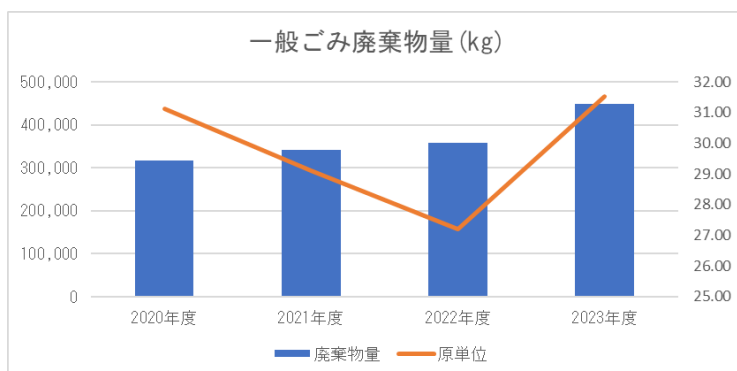
2023年度取り組み計画		担当
①ペーパータオルの削減		〃
②ゴミ圧縮機の導入		
③工場内での雑紙回収		

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①	計画	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	実行	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
②	計画						■	■	■	■	■	■	■
	実行						■	■	■	■	■	■	■
③	計画	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	実行	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

<今年度 実績・結果>

項 目		単位	目標値	実績値	達成率 (%)	評 価 (○, ×)
			2023/4/1～2024/3/31			
5. 一般ごみ廃棄物削減		kg/売上 (百万円)	26.94	31.51	85.5%	×
			-1%			
	段ボール・雑紙等	kg/売上 (百万円)	22.55	28.01	80.5%	×
	一般ごみ	kg/売上 (百万円)	4.3854	3.5055	125.1%	○
		【実績評価】価格改定に伴う旧包材の処理及び、仮取箱の廃棄（虫の発生に伴う）により、段ボール廃棄量が増加し、目標未達となった。				

<今年度 一般ごみ廃棄物量グラフ>



<次年度 取り組み計画>

取り組み計画	担当
①購買・開発で取り組む薄肉化に関する情報共有・効果の確認	〃

6. 産業廃棄物削減

<今年度 取り組み計画>

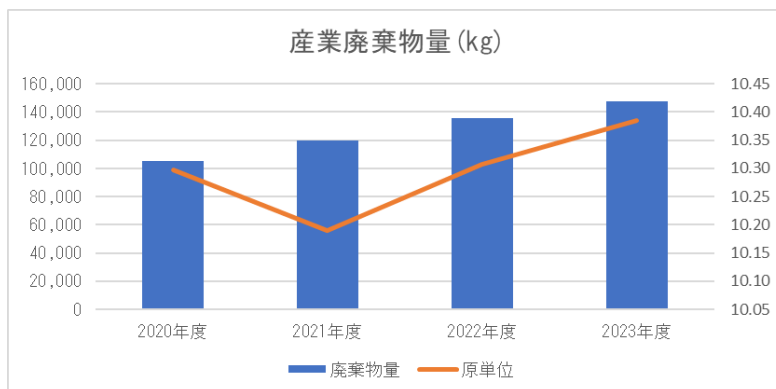
取り組み計画	担当
①包装フィルムの薄肉化	

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
計画 実行												

<今年度 実績・結果>

項 目	単位	目標値	実績値	達成率 (%)	評 価 (○, ×)
		2023/4/1～2024/3/31			
6. 産業廃棄物削減	kg/売上	10.20	10.39	98.26%	×
	(百万円)	-1%			
	【実績評価】 値上げに伴い、旧包材の処理のため廃プラの量が増加し、目標未達となった。				

<今年度 産業廃棄物量グラフ>



※突出箇所は排水汚泥回収のため増加

<次年度 取り組み計画>

取り組み計画	担当
①購買・開発で取り組む薄肉化に関する情報共有・効果の確認	

7. エコ検定合格者の排出

<今年度 取り組み計画>

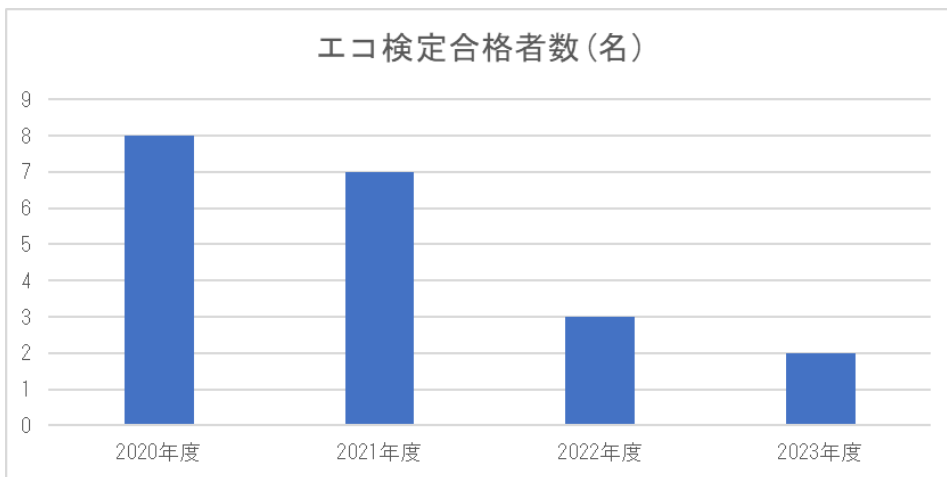
取り組み計画		担当
①引き続き合格者を輩出するために、教育プログラムへエコ検定を組み込む		■

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①	計画 実行												

<今年度 実績・結果>

項 目	単位	目標値	実績値	達成率 (%)	評 価 (○, ×)
		2023/4/1～2024/3/31			
7. エコ検定合格者	名	5	2	40.00%	×
	【実績評価】 受験対象者7名のうち、2名のみの合格で目標未達となった。				

<エコ検定合格者数グラフ>

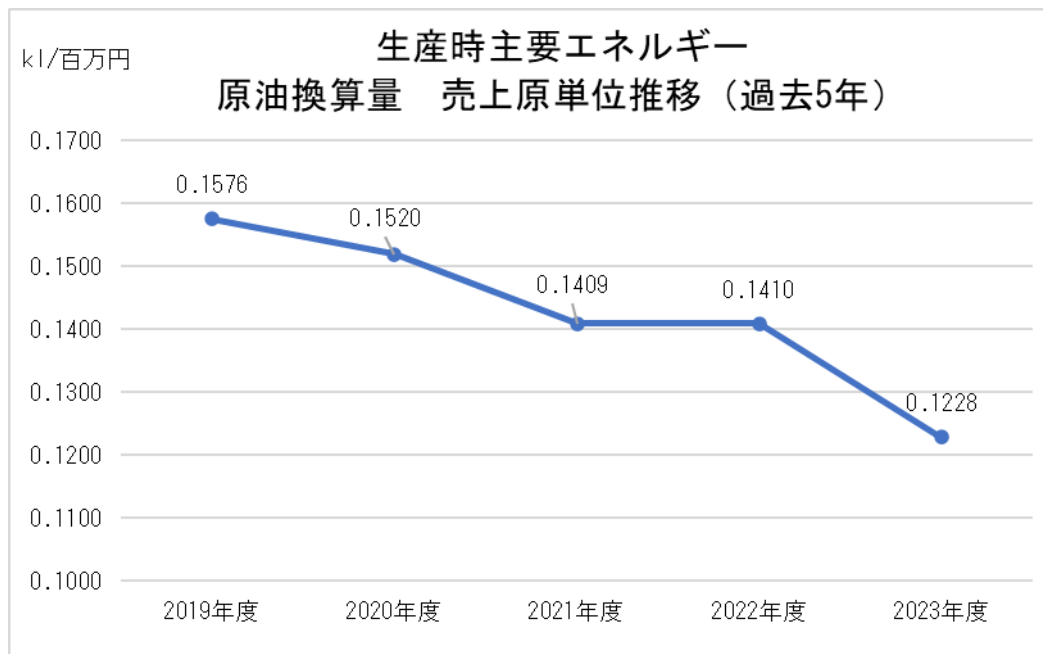


<次年度 取り組み計画>

取り組み計画		担当
①合格者を輩出するために、教育プログラムへエコ検定を組み込む。Eco委員会メンバーにEA21についての社内セミナーに参加してもらう。		■

6. 主要エネルギー原油換算量・売上原単位推移

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
電気	4,482	4,538	4,778	5,313	5,163	(千kWh)
ガス	327	329	367	422	360	(千m ³)
原油換算量	1,532	1,549	1,655	1,856	1,746	(kl)
売上	9,723	10,192	11,747	13,167	14,219	(百万円)
原単位	0.1576	0.1520	0.1409	0.1410	0.1228	(kl/百万円)



生産時に使用する主エネルギーである電気とガスの原油換算量合計値を売上原単位で過去5年間比較すると、おおむね右肩下がりとなっている。また23年度に大幅に合計値が下がった要因として、オープンを使用するラインの深夜勤の終了によるシフト数の減少でガス使用量も減少したことが挙げられる。それに伴い、電気使用量も減少したと考えられる。また、製品の値上げも実施した。したがって、原油換算量売上原単位でみると前年比12%減少している。

7. エコに関する各部署年間経営目標

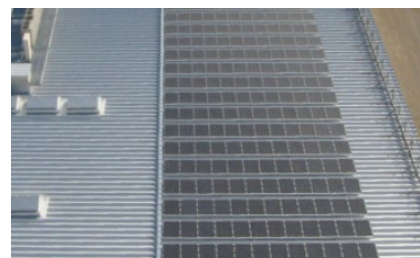
部署	目標と施策	
生産部 生産 1 課	目標	廃棄量(kg)/生産量(kg) 前年度 5%削減
	施策	廃棄ミール・床落下・X 線ムダバネ
生産部 生産 2 課	目標	前年度廃棄量生産比率 20%削減
	施策	廃棄ミール・床落下・X 線ムダバネ・金検誤反応
生産部 生産 3 課	目標	各ラインの 1 シフトあたりの食品廃棄量 10%削減
	施策	ロスの現状把握を行い、PDCA サイクルを回す、ロス削減チーム活動をリンクさせる
SCM部 生産管理課	目標	生産管理起因の不良在庫（原料）廃棄量を「250 kg/月以下」に抑える
	施策	発注時のリスクアセスメントを実施しリードタイムを守り発注を行う原料の賞味期限管理の徹底や、使用期限延長を図り、廃棄量を削減
SCM部 購買課	目標	サプライヤー起因の製品廃棄量を 0 kgにする（次年度データ収集が主な目的）
	施策	サプライヤーに是正処置を要望する
SCM部 業務課	目標	一般廃棄物（焼却処分）を 50%削減
	施策	紙の廃棄を削除する、再利用できるものはリサイクルごみへの分別の徹底
経営品質部 品質保証部	目標	100kg 以上の食品廃棄が発生するトラブル再発ゼロ
	施策	強化パトロール(アレルゲン、異物、包装)の実施、指摘 4M×3H 管理によるリスクアセスメント
マーケティング部 商品開発課	目標	試作室より発生する食品廃棄物発生量 年間 5%削減（前年度基準 135）
	施策	1. 原料の在庫を共有し、不要な原料は持たない 2. ラインテストで発したロスは廃棄せず、社内配布とする 3. 試作用原料も可能な限り廃棄せず、社内配布とする
生産部	目標	エアーコンプレッサーの電気使用量 5%削減

保全課	施策	工場内エアー機器のエアー漏れ部品の交換の徹底、省エアー部品の選定
人事総務部 人事課	目標	ミスプリントの発生量kgを 1,000g 以下にする
	施策	印刷プレビューにて印刷前指差し確認を実施する
生産部 総務課	目標	総印刷枚数前年比 20%削減
	施策	印刷枚数が多いものを調査、ペーパーレス化を推進する、ミスプリントを削減する

8. 当社の環境への取り組み

太陽光発電の設置

2011 年 3 月に竣工した豊橋夢工場の屋根に太陽光パネルを導入しています。倉庫の空調管理をまかなうことができる電力量（100kw）を太陽光発電によって確保し、製造プロセスにおける CO2 排出量の削減や災害時のリスクに備えています。



照明の LED 化・センサーライト化

工場内や事務所などすべての照明を LED 化することで、電力消費量を削減し、CO2 排出量削減に貢献しています。また、トイレや階段などの共用部分に関してはセンサーライト化することで、照明がつけっぱなしになることを防止しています。

エコドライブの啓蒙

社用車を使用する際にエコドライブを意識してもらうため、すべての社用車にエコドライブの表示を設置しています。

雑紙のリサイクル

工場の生産活動において排出される段ボールや冊子・厚紙、シュレッダーごみ、包材に使用されている紙製の芯や工場入場前に行うローラー掛けで使用するローラーの芯など、リサイクルできるものに関しては分別してリサイクルし、持続可能な社会に貢献しています。



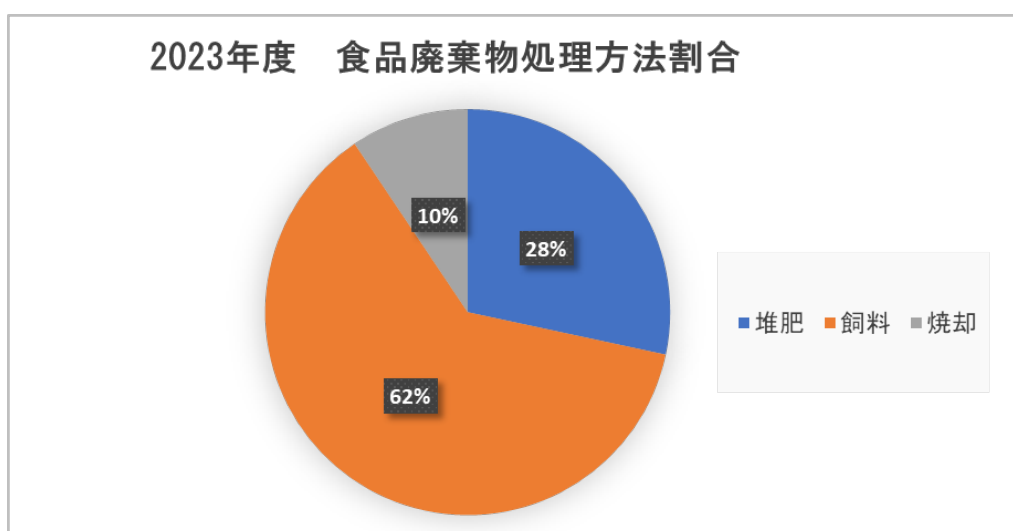
9. 当社の食品リサイクルの取り組み

＜食品廃棄物概要＞

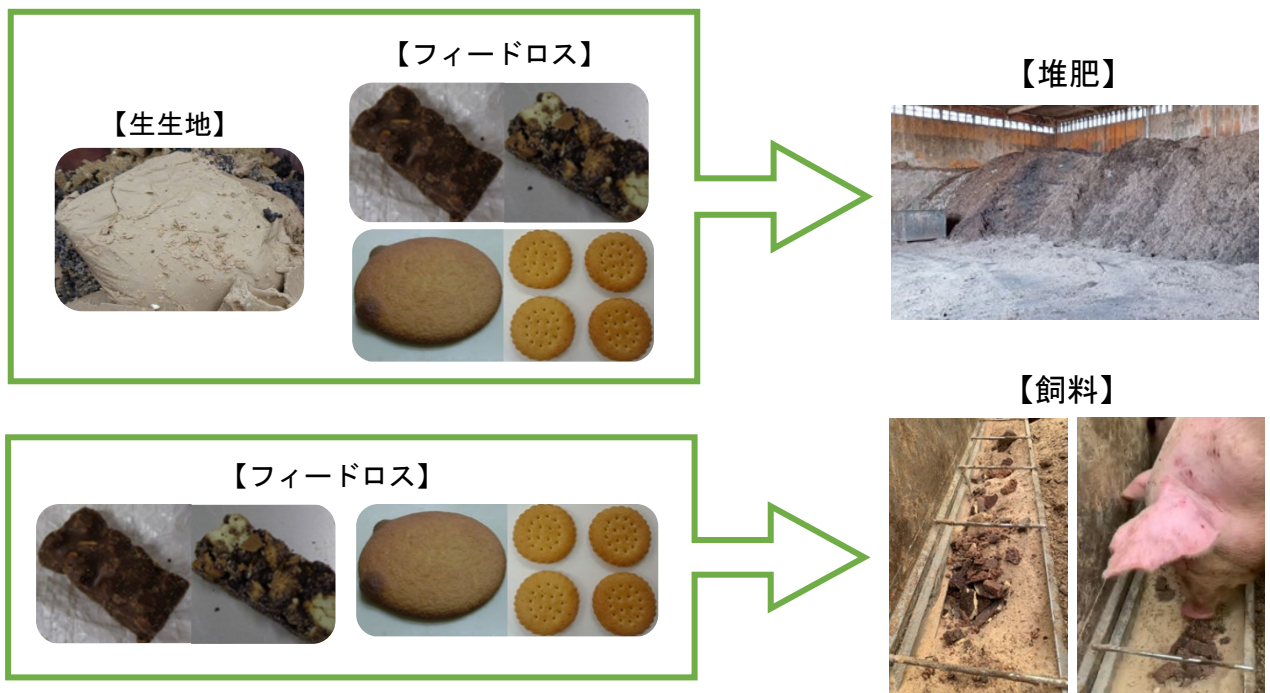
項目	単位	2019年4月～ 2020年3月	2020年4月～ 2021年3月	2021年4月～ 2022年3月	2022年4月～ 2023年3月	2023年4月～ 2024年3月
食品廃棄物 発生量	t	345.5	159.2	130.9	190.1	183.1
食品廃棄物 再生利用（肥料）	t	86.8	65.2	40.1	85.9	51.9
食品廃棄物 再生利用（飼料）	t	96.6	76.2	82.9	97.4	114.0
食品廃棄物 再生利用計	t	183.4	141.4	123	183.2	165.9
食品廃棄物 焼却廃棄量	t	162.1 ※1	17.7 ※2	7.9 ※3	6.9 ※4	17.3 ※5
再生利用実施率	%	53.1	88.8	94.0	96.4	90.6
菓子生産量	t	11,832.97	11,872.21	13,781.14	15,566.37	14,666.16
菓子売上高	百万円	9,723.29	10,192.86	11,747.40	13,167.20	14,219.00
食品廃棄物発生 売上原単位	kg/百万円	35.53	15.62	11.14	14.44	12.88
発生原単位 対前年度比	%		125.9	44.0	71.3	129.6
						89.2

- ※1 原料メーカーより金属異物が混入している可能性があるためと連絡があり、該当原料を使用して生産した製品をすべて焼却処分したため
- ※2 成型ロールを削ってしまい、金属片が混入したことにより焼却処分したため
- ※3 新規包装機導入（増設）後の調整で発生したロス焼却処分したため
- ※4 内製原料への金属片混入の疑い、また製品の水分値逸脱により焼却処分したため
- ※5 原料の保管トラブル、配合不良の多発、その他トラブル発生により焼却処分したため

＜今年度 食品廃棄物処理方法割合＞



<食品廃棄物再生利用方法>



※フィードロス：生産工程からでる食品ロス

【堆肥】

生地やフィードロスは発酵して堆肥化されている。発酵の手順は、まず木くずの上に動植物性残さを広げ、その上にさらに木くずを被せる。さらに、発酵を促すため堆肥の戻しを入れて混ぜ合わせる。熱が出てくるほど発酵が進んだら、混ぜて発酵させてを繰り返し、最終的には完全分解され肥料となる。

【飼料】

飼料化は、チョコなどのフィードロスを水に混ぜて加工される液体飼料や、固体のまま粉砕機で砕いて加工される固体飼料があり、豚の飼料として使用されている。食品リサイクルによる資源の有効利用だけでなく、飼料自給率の向上にもつながっている。

10. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反・訴訟の有無

(1) 下記の遵守項目の通り、違反はありませんでした。

確認日：2024年4月23日

(2) 関係者からの訴訟は過去3年間ありません。

確認者：

適用法令		条文	要求事項	遵守評価
水質	水質汚濁防止法	第14条	水質基準の遵守	○
		第5条	設置、変更の届出	○
	浄化槽法	第8～10条	保守点検、清掃、記録の保管	○
		第11条	定期検査	○
振動・騒音	騒音規制法	第6条	設置届出	○
	振動規制法	第6条	設置届出	○
廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	第14条	収集業者の許可書確認	○
		施行令第6条の2	委託書の締結及び保管	○
		第12条の2	保管基準の遵守	○
		第12条の3	廃棄物管理表の交付	○
		第12条の3	交付等状況報告書の提出	○
		第12条の7	処分場の確認	○
リサイクル	資源有効利用促進法	第4条	原材料等の使用合理化	○
	容器包装リサイクル法	第14条	財団法人日本容器リサイクル協会に年1回委託	○
	食品リサイクル法	第9条	定期報告書の提出(100 t 超)	○
		第3条	再生利用等実施率(業種別目標)	○
		(第3条)	基準実施率(事業者目標)	○
		第4条	食品廃棄物発生抑制の推進	○
土地	工場立地法	第6, 8, 12条	工場新設届・変更届	○
省エネ	エネルギー使用の合理化に関する法律	第8～9条	管理統括者、企画推進者の選任	○
		第14条	管理員の選任	○
		第9, 14条	資質向上講習の受講	○
		第7, 15条	中長期計画の提出	○
		第7, 16条	定期報告書の提出	○
	フロン排出抑制法	第16条	定期点検の実施	○
		第16条	定期点検の記録の保管	○
		第16条	簡易点検の実施(3ヶ月に1回)	○
その他	食品衛生法	第3条	各項目の遵守、保菌検査の実施	○
	消防法	第8条	防火管理者の選任、届出提出	○
		第17条の4	定期点検、記録の保管	○
	土壌汚染対策法	第4, 5条	変更の届出	○

11. 代表者による全体評価の結果と見直し結果

報告日：2024年4月30日

報告者：豊橋夢工場 環境管理副責任者

目標項目	達成状況 (○, ×)	環境活動計画実施状況 達成・未達成の要因	次年度環境活動計画への追加・変更
1. 二酸化炭素排出量削減	○	電気・ガス使用量減少に伴い、二酸化炭素の排出も減少。	電力とガス使用量を抑える計画により二酸化炭素の排出量も減少する見込み。
1-1. 電力使用量削減	○	深夜勤の終了（E・Gライン）に伴い電気の使用量が減少した。	各環境に適した温湿度条件を設定し、余分な電力消費を抑える。
1-2. ガス使用量削減	○	深夜勤の終了（E・Gライン）に伴いガスの使用量が減少した。	時期ごとにオープン設定を見直し、適切なガス使用量を維持できるよう努める。
1-3. ガソリン使用量削減	○	コロナによる公共交通機関の利用制限が解除されたため、車の使用がコロナ前に戻った。	不要なアイドリングの停止及びエコドライブの呼びかけを行う。
2. 水使用量削減	×	新工場の建設において水の使用量が増加した。	出しっ放しを止め、必要な量だけを使用するよう呼びかけを行う。
3. 食品廃棄物削減	×	配合不良の多発、虫混入等のトラブルにおいて、廃棄量が増加してしまった。	配合不良防止による廃棄物の削減及び、生産計画を考慮した原料管理を行う。
4. 食品リサイクル率向上	○	トラブルで廃棄対象となったものはリサイクルで処理可能であったことから、リサイクル率が向上した。	対象品はリサイクルが可能か検討・対応する。
5. 一般廃棄物削減	×	価格改定に伴う関連資材の廃棄、一時仮取箱のリユース禁止等により廃棄量が増加した。	工程のトラブル等に伴う資材の廃棄量の削減の呼びかけを行う。
6. 産業廃棄物削減	×	生産数の増加、および価格改定等による廃プラの量が増加した。	各製品の包材（材質、厚み、サイズ）等の見直しを依頼し、廃棄量の削減を図る。
7. エコ検定合格者	×	受験予定者中、半数が社内模試時点で不合格となり、最終的に合格者も2名であった。	エコに関する知識習得に項目変更。内製化セミナーを実施しエコプロメンバーのエコ関連知識の向上を図ると共に、社内でのエコ検定合格者の増員を推進する。

実施日：2024年5月16日

評価者：豊橋夢工場 工場長

項目	改善の要否	改善要否と指示事項
1. 環境経営方針	要 ☒ 否	2023年度より従業員の意識に植え付けやすい方針に変更した為、今年度は変更なし。
2. 環境経営目標及び環境経営計画	☒ 要 否	構築と運用は確立できているが、仕組みを継続的に改善していくことについては停滞している。
3. 実施体制	☒ 要 否	エコプロジェクトを企業文化とするために、メンバーについては定期的に入れ替えを実施する。
4. 経営資源 (ヒト・モノ・カネ)	☒ 要 否	成果を上げるためには、ある程度の導入をしても良いと感じてる。必要性に応じて配分をしていく。
【その他コメント】 状況や状態の経過観察から改善の手段の手詰まりを感じるため、新しい取り組みを導いて、仕組みを保っていくよう動いてほしい。内部・外部の環境変化が激しい状況である。新工場は建設段階でエコ対策が施されているため、エコプロメンバーは情報共有と成果確認を実施して、夢工場に展開していく必要がある。また、増加傾向にある食品廃棄物においては、削減のための手段には力を入れてほしい。		